

Shinran
850th

京都教区

2022年1月1日発行

慶讃だより

2022年
冬号

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

—慶讃テーマ—



- 慶讃クロスワードパズル
- 8地区より
- 慶讃テーマ委員
- 慶讃テーマから問われてくること

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要（きょうさんほうよう）

第1期法要/2023年3月25日(土)～4月8日(土) 讀仰期間/2023年4月9日(日)～4月14日(金) 第2期法要/2023年4月15日(土)～4月29日(土)



南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

慶讃
テーマ
委員

寺田 桃花

てらだ・ももか
九州教区願船寺衆徒

この慶讃テーマに、大きく背中を押され、大いに励まされ、私は、私だけの人生を歩き出しました。

私は、日本の南の端っこにある小さな島に生まれた門徒です。9年前の大きな病が縁で、真宗の教えに再び出あわせて頂きました。実は、三年前の慶讃テーマ委員会の最中にも、その病が原因で、とても苦しく辛い時期を過ごしておりました。

当時は、小学校で働いていましたので、子どもたちの前では、元気なももか先生でいなければならないと、苦しい思いをしながらも、無理に元気なふりをしていました。同僚の前では、見栄を張り、できる先生であらねばならぬと、無駄に構えてしまう。外では病を隠し、取り繕つてばかりの私でしたが、阿弥陀さんの前では、丸裸です。

縁あるお寺さんに参つては、涙を流しながら手を合わせ、阿弥陀さんにすべてを聞いてもらつていました。無理をしてがんばり続けていたので、誰にも相談できません。阿弥陀さんだけが、私の頼るすべでした。「私ががんばっているよね、阿弥陀さん」。阿弥陀さんは、何も言つてはくれません。でも、私には、「大丈夫だよ、もちろん」と呼びかけてくれているようでした。

最初の委員会でも、「お寺は私の居場所です」と、勇気をもって他の委員さん方にお伝えしました。阿弥陀さんの前では素直な私でいられますが、委員会の場では、たつた今初めての自己紹介をしたばかりです。ましてや、真宗の教えの勉強も何もしていない無知の私が、こんなこと言つてもいいんだろうか。間違つていなかろうか。とても不安に思いながらお伝えしました。「私は今とても辛いんです。でも、阿弥陀さんは、いつも私の味方でいてくれています。だから、私は生きていけるんです」

一度きりの人生。自分が好きなことを好きだけしたい。そう決意し、十一年間勤めた小学校教諭を辞め、得度し、改めて真宗の門をたたいたのです。「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」。この力強い問い合わせをたずねていきました。

親鸞聖人は「人と生まれて」という言葉を大切にされていましたと、委員会の場で教えてもらいました。私も親鸞聖人と同じように、念佛を申しながら、人と生まれた意味を聞いたずねる人生を歩んでいきたいと思います。慶讃テーマはまさに私の人生のテーマです。

もしかすると、阿弥陀さんが辛く苦しい思いをし続いている私に、本音を語れる場をプレゼントしてくれたのかもしれません。それほどまでに、他のテーマ委員会の方々は、親身になって私の話を聞いてくれました。全国にはこんなにもたくさんの中間がいる。安心したときにとても心強い思いがしたのを今でもよく覚えています。



南無阿弥陀仏 「おかげさま」の歩み

湖東

伊藤 正善

いとう・まさよし
近江第十組 還相寺

往相還相の教とは現在の世界から受けた広大無辺の恩を感謝して行く道を教える。

(『曾我量深講義集』第六巻四二頁)

私が三十歳の時に出会った今は亡き師から、曾我量深先生の講義録の素読をしなさいと教わりました。それ以来、毎日、数頁ずつ素読をつづけております。

さて、冒頭の曾我先生のおことばは、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏」について思いめぐらし『曾我量深講義集』を素読している時に、「ああ、そうだ」と心に響いてきたことばです。

それは、昨年のはじめから世界中が、新型コロナウィルス感染症の渦中となり、お寺もいろいろな行事が自粛され、集まることも、出かけることも減少し、平凡な日々を過ごしている中で、このことばに、この平凡な日常こそおかげさまと言つことに気づかされたのです。

それは、コロナの渦中、世界で医療従事者の

ご苦労を讃える報道をテレビなどを通して目にしました。そこから改めて、平凡な日常生活がおくれる意味をよくよく案じてみたとき、曾我先生の「現在の世界から受けた広大無辺の恩」ということばを通して重々無尽のこの世界が見えてきました。即ち、私の平凡な生活の背景には医療従事者はもちろんのこと無数の人々の営みと、大自然の恵みがあることです。

たとえば、朝食のパン一枚にしても、私の口に入るまでに、小説家の外村繁氏のようにふり返つてみると、アメリカで私の知らない人々が広大な畑で小麦を育て、そして収穫されたものが集められ、トラックでどこかの港に運ばれ、そして、船に積み込まれ、太平洋を渡つて、日本

の港で荷揚げされ、加工場に送られ小麦が製粉され小麦粉となり、パン工場に送られ、パンに製造され、工場から小売店、スーパー・マーケットに輸送され、店員さんが店頭に陳列され、それを私が購入しておなかが満たされたわけです。

さらに思いは広がります。小麦の原産地はどこで、パンはいつごろからどこで作りはじめたのであろうかと、パン一枚にしても、その背景は無尽に広がっているのですから、私の日常を

支えているすべての物事に眼をむければ、曾我先生のおっしゃる「広大無辺の恩」を賜つことがあります。

また「往相還相の教」である浄土真宗の「現在の世界から受けた広大無辺の恩を感謝して行く道を教える」とは、私がもうすでに頂いていたと学んでいく、味わっていく時、それをして深く学んでいくことを教えること

一步一步が報恩「おかげさまの歩みとなることを教えて下さっているのであります。

また、先生は、「南無阿弥陀仏は還相である。おかげさま。おかげさまとは仏様のことである。(中略) 山も河も鳥も魚も一木一草も、仏の還相としておかげさま。(中略) 御飯の一粒にもおかげさまと拌む」(『同書』三三頁)と述べられています。このおことばから先生が、現在の世界から広大無辺のお働きを「おかげさま」と頂き、還相の仏様と拌まれているお姿を尊く拝します。

このような曾我先生の往相の生活から生まれたおことば、還相の南無阿弥陀仏に出会って初めて、私の平凡な日常生活が、現在の世界から受けている広大無辺のお働きのたまものであり、おかげさま、南無阿弥陀仏と頭が下がります。



慶讃きょうさん 第2弾! クロスワードパズル

正解者の中から抽選で3名様に「図書カード1,000円分」を
プレゼントします。
ハガキに、

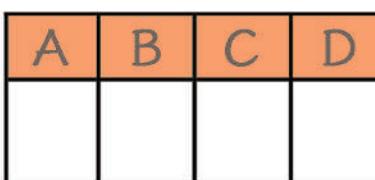
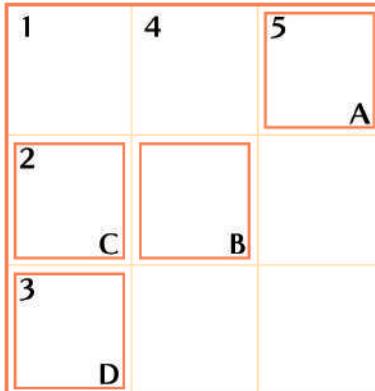
- ① 慶讃クロスワードパズルの答え
- ② 郵便番号・住所・氏名・電話番号
- ③ 「慶讃だより」を読んでの感想

をご記入の上、京都教務所までお送りください。
締切は2022年2月1日(京都教務所必着)です。

【宛先】

〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入る
京都教務所 「慶讃クロスワードパズル係」まで

- ◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。
- ◆いただいた感想は『慶讃だより』に掲載する場合があります。
- ◆個人情報はプレゼントの発送および紙面づくりの参考にし、
それ以外の目的には使用しません。



ヨコのカギ

- 1 布施には法施・財施・〇〇〇がある。
- 2 お念佛のみ教えが次の世代に確かに受け
継がれていくよう〇〇〇をお願いしてい
ます。
- 3 仏教経典では、3000年に一度花が咲くと
いわれている。〇〇〇華。

タテのカギ

- 1 「私の信念には、私が一切のことについて
私の自力の〇〇〇なることを信ずる、と
云う点があります」。（「我が信念」清沢満之）
- 4 龍樹菩薩の出身国は？
- 5 「天親」という呼び名のほかに「〇〇〇」
という呼び方もされています。

2021年秋号の答えと感想の紹介

たくさんのご応募ありがとうございました。
慶讃クロスワードパズルの答えとご応募いただいた方の中から2名の方の感想を掲載させていただきます。第2弾へのご応募、お待ちしております。

2021年秋号慶讃クロスワードパズルの答え

A	B	C	D	E	F	G	H
じ	ざ	け	と	し	お	か	ら

「慶讃テーマから問われてくること」にのせてあ
ったお2人の文章はつらい経験をされてきたから
こそ本当にこの慶讃のテーマと向きあいつづけて
いる姿勢に頭の下がる思いで、自分も又、このテ
ーマと向き合いつづけなければと改めて感じま
した。これからもぜひこういった文章をのせていた
だきたいと思います。

慶讃テーマの「人と生まれたことの意味をたずね
ていこう」のもつ意味、託された願いが、慶讃だ
より（2021年秋号）の結柴依子さん、河野縁さん
の感動と共感を覚える寄稿文から解けたように思
います。私のモヤモヤしていた胸の内に光が差し
込み、振り動かされました。ご教示ありがとうございました。合掌

編集後記

今号より、出版委員に加わりました。原稿を読みながら、筆者の思いを推察し、選ばれた言葉を大切にしながら、思いを届ける作業。初めて臨んだ編集会議での細やかな議論に、今までのお聖教のいただき方を問われました。たとえば「正信偈」。意味を読み解き知識を増やそうと。一つ一つの言葉の表現の背景や聖人の思いまで読んだことはなかったな。
『親鸞聖人の自筆にふれる正信念仏偈』を開いてみ
ました。力強い文字、たくさんの推敲。聖人の思いを
私のことといただけた時、慶び讃えることができるのかもしれません。

（教化広報部会 長 紀子）

真宗大谷派 京都教区『慶讃だより』2022年冬号
発行人 日野 隆文（真宗大谷派京都教務所長）
発行日 2022（令和4）年1月1日
発行所 真宗大谷派京都教務所 Tel:075(351)5260
〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入
Eメール kyoto@higashihonganji.or.jp
表紙絵 「今に生きん」伊藤はるか

真宗大谷派京都教区ホームページ

京都教務所

検索

